

◆第10回中学校学級経営セミナー 「授業力に焦点化して」

2009. 9. 24

札幌市・ちえりあ/14:00~15:00

＜主として社会や集団とのかかわりに関すること

4-⑥家族愛＞

「母の日の授業」(『とっておきの道徳授業Ⅶ』日本標準 修正ver) 模擬授業

石川 晋 (上士幌町立上士幌中学校/NPO法人授業づくりネットワーク理事)

zvn06113@nifty.com

<http://homepage1.nifty.com/maru-shin/>

【今回の模擬授業の展開を説明します】

前任校である広尾町立広尾中学校で行った授業。中3対象。桃崎剛寿編著『とっておきの道徳授業Ⅶ』(日本標準)に発表したけど、それを修正した展開です。

○「母の日の授業」の流れとポイント

1. 「お母さんに言われて、いやだなと思うこと」を言いなさい。

2分

列の後ろから前へ当てていく。

技術1:

列で指名する時に、前から後ろではなく、後ろから前へ当てていくことで、全員の参加意識を高める。

2. 資料配付「ORICON STYLE 母の日特集 みんなの理想の母親像&贈りたい曲は？」 2分
配付。範読。

技術2:

配付の際に、「はい、どうぞ⇒はい、どうも」とやりとりをして受け渡すことで、小さなコミュニケーションを取らせる。

SEAMOの“MOTHER”を聞く。

5分

技術3:

子どもたちの関心を惹く素材を教材として用意する。

3. 「お母さんが喜んでくれそうなことを考えて書きなさい」

3分

技術4:

考えは、書かせてから、発表させることで、全員の参加意識を高める。

技術5:

書かせる時間は、短いくらいの方が、学習に緊張感を生む。

発表させる。

4. 「お母さんに会いたくても会えない子どももいます。震災でお母さんを亡くした子どもが書いた2つの作文を読んでみましょう」

5分

プリントを配付し、範読。

＜はい、どうぞ⇒はい、どうも＞ができた子どもをその場でほめる。

技術 6 :

もう一度同じ学習を体験させて、できたらほめることで、学習したことを再び使おうとする姿勢を育てる。

技術 7 :

できたことは、その場でほめる。何が、どうしてほめられたのかが、はっきりすることで、良さとまずきのポイントが子どもにはっきりわかるようにする。

技術 8 :

語りかけるような読みで、子どもの心を揺さぶる。

5. 「二つの作文から、あなたはどんなことを感じたり、考えたりしましたか。メッセージパッドにたくさん書きなさい」 5分

技術 9 :

小道具を使うことで、視覚や触覚など様々な感覚を刺激して、学習意欲を高める。

6. 書いた作文をグループで回覧します。いいなあと思ったら、サインを書いてください。 5分

7. たくさんサインが集まった感想を読んでもらう。 3分

技術 10 :

友達の考えや意見に触れたり、感情を共有する機会を持つことで、考えを広げたり、深めたりする機会を保障する。

技術 11 :

発表の仕方を多様にする。特に「内省」を引き起こし、「内化」を生む仕掛けづくりに工夫する。

8. 「母の日に、お世話になっているお母さんに感謝の手紙を書きましょう。私は読みませんから、安心して書いてください」 (20分)

技術 12 :

自分の気持ちや考えを、安心して表現できるように腐心する。

石川 晋 (いしかわ・しん/NPO法人授業づくりネットワーク理事、日本児童文学者協会会員、「研究集団ことのは」、日本野鳥の会会員/上士幌町立上士幌中学校教諭)

080-1408 河東郡上士幌町字上士幌東4線243 01564-2-3870 (FAX兼)

連絡先は、ロゴに示したとおりです。わからないことがあれば、ぜひ連絡してください。